



青森総合卸センターニュース

編集・発行 協同組合青森総合卸センター 〒030-0131 青森市問屋町2丁目17-3 ☎017-738-4711 FAX017-738-7323
URL https://www.tonyamachi.com E-mail info@tonyamachi.com 発行/2023年11月30日

秋季合同企業セミナーを開催 青森県流通団地連絡協議会

県内の5つの卸団地で組織する青森県流通団地連絡協議会の秋季合同企業セミナーが10月6日(金)に青森中央学院大学で開催され、組合員企業15社が参加した。

同協議会では県内の各団地や組合員企業の認知度向上、採用機会の拡大を目的に、2018年から共同求人活動に取り組んでいる。

当日は約130名の学生が参加し、各教室に設置された

青森中央学院大学では例年この時期に、これから本格的な就職活動を迎える経営法学部3年生のキャリア授業の一環として合同企業説明会の模擬体験を実施。当協議会の企業セミナーとタイアップする形で行われ、今年で5回目となる。

同協議会の次の合同企業セミナーは、2月5日(月)に青森公立大学で開催予定。

企業ブースを訪れた。セミナーに参加した学生は「初めて聞く名前の企業が多く、説明を聞いていくつか興味を持った企業があり参加してよかった」などと感想を述べ、様々な業種の組合員の話に熱心に耳を傾けていた。



合同企業セミナー



希望する企業ブースへ足を運ぶ



熱心に質問する学生

大学生が企業見学で来訪

10月28日(土)に青森公立大学の1年生22名が、フィールドスタディの一環で当組合を見学に来訪した。

当日は組合の小田切事務局長が講師を務め、組合の概要や流通業について説明。その後、共同物流センターに移動して施設見学を行った。学生は普段なかなか見ることができない商品保管の現状を見学

し、流通業の役割等について理解を深めていた。



フィールドスタディで来訪

組合ロゴマーク商標登録完了

組合では、模倣の防止効果によってブランドの毀損を防ぐとともに組合ロゴマークを永続的に使用するため、7月に申請していた問屋町のロゴマークの商標登録がこのほど完了し、登録証が交付された。問屋町のロゴマークは2005年に問屋町の「街並・景観ブランニング」策定の際に作成し、ゲートサインやシャッターマーケティング、車両マーケティングシール等に用いられ、問屋町の認知度向上及びブランドの確立に大きく寄与してきた。今回の商標登録にあたっては、青森県知財総合支援窓口のサポートを受けながらスムーズに進められた。



商標登録証

第 6 回 理 事 会

組 合 員 昼 食 会

2023年度第6回理事会が10月27日(金)に問屋町会館で開かれ、審議の結果、全て原案どおり承認された。

また、事務局からは組合ロゴマークの商標登録の完了や2023年度決算予想などについて報告した。

主な案件審議は次のとおり。

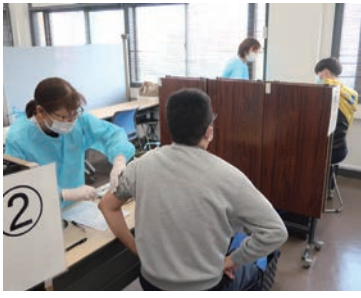
案件一、組合員跡地買取資金の借換について

案件二、新年会の開催について

案件三、2023年度第7回理事会の日程等について

インフルエンザ予防接種・
集団健康診断を実施

インフルエンザ集団予防接種を10月23日、25日、27日、11月1日の4日間、問屋町会館で開催。組合員従業員の他、



インフルエンザ予防接種



集団健康診断

組合員昼食会が10月5日(木)に問屋町会館2階大会議室で開催され、組合員従業員ら51名が参加した。

はじめに、(株)商工組合中央金庫青森支店の深道支店長と小松調査役が、同金庫が提供するサービス「幸せデザインサーバイ」について紹介した。

本サービスでは約1000の質問を従業員が回答すること、企業の幸福度を可視化したレポートが発行される。個人の幸福度と企業の成長には

相関関係があり、経営者と従業員が幸せに働ける会社を創

近隣企業にも受診を呼びかけ、1295名が受診した。

今年のインフルエンザは例年より早く本格的な流行を迎え青森市内でも医療機関の予約が取りづらい状況がある中で、当事業は職場に近い問屋町会館で待ち時間なく予防接

ることが企業の持続的な成長につながる。次に、(株)アンカリノクの安部社長が同社の運営する採用支援サイト「アンカリノク」を紹介した。企業が同サイトに登録すると、登録している本県で働きたい学生に直接アプローチでき、認知度の低い企業でも望む人材をスカウトできるメリットがある。

つづいて、組合員である(株)伊藤園の安住課長が、日本茶の特徴と同社の事業について説明した。日本茶は日本人のライフスタイルの変化とともに、飲まれ方、楽しみ方が多様化。体脂肪の低減作用があるカテキンなどの健康に良い

成分が多く含まれていると話し、お茶の美味しい入れ方を実演した。

最後に事務局から問屋町SDGs標語コンクール作品募集などについて案内した。

また、10月10日から13日までの4日間、第5回集団健康診断が問屋町会館で開催され、376名が受診した。

組合では短命県返上に少しでも寄与すべく、市南部の健康づくりの拠点として、健康事業の充実を図っていく。

東北の団地職員が交流
東北卸商業団地連絡協議会

東北の卸商業団地の事務局職員を対象とした研修会が10月27日(金)に郡山市の東北総合卸センター(協)で開催され、10団地から16名が参加し



東北卸商業団地職員研修会



お茶の美味しい入れ方を実演

業務報告

……主要事項……

- 10月
- 5日▽組合員昼食会
- 6日▽県流通団地連絡協議会合同企業セミナー
- 10日▽第5回集団健康診断(13日)
- 12日▽第7回問屋町合同清掃
- 15日▽第4回問屋町緑のボランティア隊
- 16日▽金融審査会
- ▽第2回従業員モニター会議
- 18日▽安協問屋町支部第2回役員会
- 23日▽インフルエンザ集団予防接種(1日目)
- 24日▽安協問屋町支部第4回街頭指導
- 25日▽インフルエンザ集団予防接種(2日目)
- 27日▽第6回理事会
- ▽インフルエンザ集団予防接種(3日目)

……問屋町
ビジネススクール……

- 17日▽職場の人間関係に悩まなくなる秘訣
- 26日▽社員が離職しやすい会社の特徴



暖かく快適な窓迎をお届けします!

長内サッシ工業株式会社
青森市問屋町2丁目12-35
TEL 017-(728)-1311

温活



MADO 青森中央店

住宅設備機器・冷暖房機器
住宅関連商品総合卸商社

株式会社 金 辰 商 事

本 社 青森市第二問屋町3-3-13 TEL 729-3111
営業所 仙台・弘前・盛岡・八戸

100日ウォーキング終了

7月24日からスタートした「問屋町100日ウォーキング」が10月31日で終了した。今年で5回目となる同イベントには、25社から62チーム、187名とこれまでで過去最多の参加数となった。参加者は組合が貸与した万歩計を装着し、入賞を目指して歩行数を競い合った。

競技の結果、㈱メディセオのポムポムプリンチームが、1人あたり1日平均1万8千歩を歩き初優勝を飾った。また、競技期間中は暑い日

が続いたが、1日平均1万歩をクリアする百万歩賞は見事に29名が達成した。

第5回問屋町100日ウォーキング結果

チーム

順位	会社名	チーム名	総歩行数	1人あたり 1日平均歩行数
優勝	㈱メディセオ	ポムポムプリン	5,675,423	18,918
準優勝	㈱金竹成家	金竹成家B	5,006,902	16,690
第3位	㈱金竹成家	金竹成家A	4,783,342	15,944

個人

順位	会社名	参加者名	総歩行数	1日平均歩行数
第1位	㈱金竹成家	佐々木 浩一	2,264,437	22,644
第2位	㈱メディセオ	佐藤 真由美	2,135,918	21,359
第3位	㈱金竹成家	長谷川 柳春	2,109,811	21,098
第4位	㈱メディセオ	和田 雅子	1,803,825	18,038
第5位	㈱メディセオ	水嶋 奈緒	1,735,680	17,357

年賀葉書・年賀切手の販売

問屋町簡易郵便局

販売期間

2023年11月1日～

2024年1月10日

年賀郵便物引受開始日

2023年12月15日

お年玉くじ抽選日

2024年1月17日

お年玉商品引換期間

2024年1月18日～

2024年7月17日

購入方法

窓口、電話または専用のご注文用紙でも受付。
※販売数に限りがあり、なくなり次第終了となる商品もあるため、お早目にご購入ください。

経済雑感

第一四二回

青森県商工会連合会

専務理事

前多

正博

前号に引き続き、青森県商工会連合会の前多専務理事による経済雑感をお送りする。人口減少と高齢化が進展する中、事業所の減少は各業種にわたって均一とは限らず、地域によっては、特定の業種が無くなるケースが出てくることも考えられます。特定の業種が無くなると、地域経済活動の在り方も変貌し、町村部でのビジネスの方法も変わっていく可能性があります。

平成27年に内閣府が実施した「国土形成計画の推進に関する世論調査」では、日常生

活を営む上で自宅から徒歩や自転車で行ける範囲に最低限必要とする施設として、回答者の約7割が「日用品、食料品などを販売するスーパーマーケット」「個人商店などの小規模な小売店舗、コンビニエンスストア」を挙げています。例えば地域に唯一の食料品店が撤退した場合、地域の住民は日々の暮らしに欠かせない食料品や日用品を調達する施設を失うこととなります。実際に全国では、後継店が出来るまで空白期間が生じている地区も発生しており、その解消のために卸売業者が出張販



青森県商工会連合会
専務理事
前多 正博氏

売する定期市の開催に至った例もあります。この事例では、市が卸売市場や世話人会と連携して定期市を開催しました。収支は赤字であるものの、地域貢献のため今後とも取組みを継続していく予定としていました。地域内の事業所が無くなる懸念がある中、県内において昨年の夏の大規模災害の際に、西海岸地区で浸水した高齢の事業者で「店舗改修のために借金をしても、もう年だし、返済が大変だからここでやめてしまおう」という経営者もいました。しか

し、この経営者は地域の応援や行政の支援を受けながら経営を再開していました。一部の地域では事業所数が増加している場合もありますが、一般に町村部では、お店などの事業所が減少から増加に転じることは多くはありません。そこで、起業・創業を増やすことや事業承継を進めることは地域に商売を残していくための重要な取組みとなります。

商工会ではそれらの取組みと共に、人口減少や高齢化社会の中でも地域経済が元気でいられるよう、これからの商工会活動の方法やあり方を探りながら、事業者に伴走した支援と地域振興を行っていきたいと考えています。(完)



県火災あおもり

創立70周年

記念キャンペーン実施中

応募期間

R5.10.1～R5.12.28

ご応募はこちらから→



暮らしのなかにあるさまざまな
「もしも」を
しっかりサポートいたします！

医療総合
保障共済

火災共済

MAP
自動車共済

取扱 青森卸センター代理所

TEL 017-738-4711

地球と暮らしにやさしい快適な住環境を目指して

CHOFU

代表取締役社長 種田 清隆

株式会社 長府製作所

本社 山梨県下関市長府扇町2-1 TEL 083-248-1111
青森営業所 青森市問屋町二丁目18-18 TEL 017-738-4141鴨沢塗料株式会社
青森支店

日本ペイント 特約店

■主要品目
塗料全般、塗料資材、塗装機、接着剤、
各種テープ、溶剤類、他

青森支店 青森市問屋町一丁目12-4 TEL (017)738-1771代
E-MAIL: aomori@kamosawa.co.jp FAX (017)738-1772

銀杏の実がついた イチヨウの木が増加中

問屋町地区の街路樹であるイチヨウで銀杏の実をつける木が年々増え、弊害がでてい



悪臭を放つ落ちた銀杏の実

団地企業訪問

今回の団地企業訪問は、境建材(株)の村木社長にお話を伺った。

同社は、昭和28年5月に明治末年より個人営業してきた建築資材の販売業務を引き継ぎ、(株)境新吉商店として設立。昭和36年4月に境建材(株)に商号を変更し、今年70周年を迎えた。

「当社は、木材・建具・住宅設備・左官材料など建築資材全般の販売と付随する工事を行っています。要望があれば、部屋のリフォームや設備の交換なども行います。昨年8月には、DIYの技術指導やワークショップ、材料や工具の販売、自

る。イチヨウには雄と雌があり、雌の木に銀杏の実がなる。問屋町のイチヨウは約50年前に雄の木を植樹。その後、原因は不明だが雄雌転換が発生し、雌の木は今年78本にもなり、昨年から15本増加した。落ちた銀杏の実が道路に散乱し景観を損ね、また強烈な悪臭を放つため、近隣の組合員も対処に苦慮している。組合では、インフラ再整備計画の中で、街路樹の整備について検討していく。

今年度の景観美化活動終了

10月12日(木)に第7回問屋町合同清掃が実施された。今年度最後となった同活動に



合同清掃

は249名が参加し、問屋町・第二問屋町に分かれ、団地内のごみ拾い等を行った。今年度の合同清掃は4月から10月まで月1回行われ、全7回で過去最高の延べ1738名が参加した。



緑のボランティア隊

また、10月15日(日)には、緑のボランティア隊も今年度最後の活動を行った。今回は第二問屋町枝線道路の街路樹下枝刈りや街路樹樹等の除草作業を実施し、今年度の美化活動を締めくくった。



境建材(株)
代表取締役社長
村木 裕俊氏

由にお使いいただけるレンタルスペースを完備した青森市内では初となる、DIY専門の総合型スペースとして『問屋町ワーク村』をオープンしました。自宅でのDIYをしようとすると音やゴミの問題が出てきますが、当スペースを利用することで、そうした問題を解決でき、利用していただく方から「こういう場所を探していた」という声をいただいています。工具の貸し出しや使い方も教えているほか、学校やイベントへの出張も行っているため、気軽に利用していただきたいです」とアピール。

ご自身の今後の取り組みについて伺うと「今は建築資材の販売がメインですが、工事の仕事を増やせることを増やしていきたいと思っています。また、異業種とコラボして展示会などをしてみたいです。全く違う分野の業種とコラボすることでお互いのお客様をうまく取り込んで建材にも興味を持ってもらえたら嬉しいです。DIYに

ついては、お客様が自分の必要としている物を細かくインターネットで調べれば建具屋の経験を活かしアドバイスができます。より知識や経験を高め、お客様の要望に応えら

れるよう取り組んでいきます」と力強く語る。

「以前、青年海外協力隊で中東のシリアに2年間行っていました。平成23年に行ったのを最後に帰国してからは、現地に友達もたくさんいるので、また渡航できる日を楽しみにしています」と話す。

座右の銘は「アントニオ猪木さんが引退時にスピーチした『道』です。踏み出した一足が道になるから怖がらずに踏み出せよと応援してくれているように、受験の時など、やってみなければ結果は分からないです。何かあれば思い出す言葉です」と締めくくった。

(42歳)

編集後記

組合ロゴマークの商標登録を行いました。このロゴマークを使い始めて18年が経過し、緑と青が象徴的な当マークはすっかり問屋町のシンボルとして浸透しました。昨年、知財に関する研修会を実施した際に意ある第三者からの防衛策として登録を勧められたことがきっかけです。安心して使い続けられるようになりましたので、これからもぜひご最厚に▼さて、帝国データバンク発行の青森県版ニュースに青森県の社長年齢分析が掲載されていました。企業の後継者不足は全国的な社会問題になっており、現状が気になるところです▼同分析によると青森県における社長の平均年齢は62・1歳、2000年の56・6歳から+5・5歳となっており過去最高を更新しています▼都道府県別にみると

トップ1は秋田県の62・4歳、2位は岩手県の62・3歳、次に青森県と北東北3県がトップ3を占めています。最下位は三重県の59・1歳で全国的に東高西低の傾向になっています▼青森県の年代構成をみると、60代が最も多く29・6%、70代25・0%と60代以上が6割を占めています。40代以下は全体の16・8%しかなく、なかなか世代交代が進んでいないことがわかります▼そんな中、当組合の地元企業が集まる「青森問屋町経営同友会」は若いメンバーが多く、平均年齢は50歳以下。会の活動も活発で、組合員に対するレクリエーション事業も行ってくれています。これからの青森市経済を担っていく若手経営者が集まっております。非常に頼もしい限りです。

(小田切)



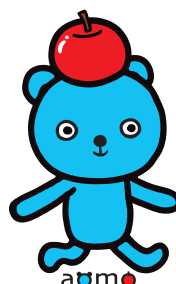
〒030-0113 青森市第二問屋町四丁目11-18
TEL: 762-1411 FAX: 739-7771 <https://www.soft-academy.co.jp/>



株ソフトアカデミーあおもり

●システム企画・開発・運用 ●IT教育 ●給排水CAD・申請 ●施設賃貸事業

私達はDX人材育成と
企業のDX推進をサポートします



プロクレアホールディングス

青森銀行